

07 ドゥオーモの内部（聖カルロの地下礼拝堂、聖堂左側と初期キリスト教遺物）

聖堂内陣の右側の見学を続けましょう。聖歌隊席のそばにある扉を通して階段で中央祭壇の真下にあたる地下聖堂へ下りましょう。ここにはドゥオーモ宝庫蔵があり、教会の最も貴重な調度品、サン・カルロの礼拝堂、殉教者のクリプトなどがあります。聖カルロ礼拝堂は1606年にフランチェスコ・マリア・リキーニにより実現された八角形の小さいながら大変貴重な礼拝堂で天然水晶と銀の棺の中に聖人カルロ・ボッロメオの遺体が置かれています。

一方、前面のクリプトはペッレグリーノ・ティバルディの設計によるもので漆喰や色大理石に飾られた素晴らしい円形礼拝堂で、このように中央祭壇の下にミラノの殉教者の遺物が保存されているのです。

再び、地上に戻りましょう。教会を横切って左側の翼廊にいきましょう。聖堂右側と同様、ここも三つに分かれています。右側の奥には小さな扉があり「プリンセスの階段」につながるものですが現在は一般には閉鎖されています。かつては高貴な身分の人のみ使用されていました。今日では屋上行きエレベータの場所に対応していますがエレベータに行くには一度教会をでて外から回る必要があります。次の中央部にはフランチェスコ・マリア・リキーニの手による「木の聖母マリア」の礼拝堂があります。その前にはトリヴルツィオの大燭台があります。ゴシック様式のブロンズ製の燭台であり、宗教的な光景や人物に加えて竜や猿、そして猛獣などの金細工の装飾がほどこされています。高さは5メートルもあり、13世紀につくられたものであり、1562年にこれを献上したトリヴルツィオ司教の名前がつけられています。

次にドゥオーモの唯一のゴシック様式祭壇であるサンタ・カテリーナ・ダ・シエナの祭壇があります。

ここから大聖堂の左側身廊を通して入り口の方に進みましょう。右側にペッレグリーニの設計による3つの祭壇が続いています。順番に聖アンブロージョ、聖ジェセッペ、そして聖カルロの十字架に捧げた祭壇です。最後の祭壇の前には多数の蠟燭が点火されており、展示されている木製十字架の奇跡に対する信者の信仰の厚さを証明しています。この十字架こそ1576年にサン・カルロが流行していたペストを止めるために大行列にもっていったものなのです。

ここからさらに進むと、壁面に赤大理石でできた使徒のレリーフ像があります。これは12世紀末のロマネスク様式の作品でありサンタ・マリア・マッジョーレ教会からきたものです。

使徒像のすぐ前には、4つの柱で支えられたペッレグリーニのもう一つの創造物、洗礼堂があります。石製の中央水槽は古代ローマ時代のもので、

出口近くの壁面には、12の星座の12番目のシンボルである山羊が描かれています。その他の星座は床面に真っ直ぐ伸びる金色の線上に描かれており、1786年にブレラの天文学者により設置された日時計の一部を構成しています。聖堂の反対側の頭上にある小さな穴から毎日正午に光線が入ってきてその月の星座の上にとどります。冬至はほぼキリスト教のクリスマス時期に呼応し、その時期、光線は壁面の山羊の画に当たり周囲を光輝かせます。

最後に、中央の正面入り口そばにドゥオーモで最も感動的で素晴らしい場所の一つへの入り口があります。サンタ・テチア教会とサン・ジョヴァンニ・アッレ・フォンティ礼拝堂の初期キリスト教の遺物です。これらは1960年に、ミラノの地下鉄工事の際に発見されたものです。ほぼ中央には、水の流れていた水路と洗礼堂の八角形の古い泉の水の跡がはっきりと見えます。まさに西暦387年のイースターの夜に、聖アンブロージョが聖アゴスティーノに洗礼をほどこした場所なのです。